



入院のご案内



入院について

診察券

ご入院の手続き

- 当日は、指定された時間にお越しください。
- 入院されるまでに身体の調子が悪くなったり、緊急に連絡が必要な場合は右記にご連絡ください。

総合案内

☎078-754-8700

入院時にお持ちいただくもの

<入院書類>

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 診察券 | <input type="checkbox"/> 限度額適用認定書(該当の方) |
| <input type="checkbox"/> 保険証または、マイナンバーカード | <input type="checkbox"/> 印鑑 |
| <input type="checkbox"/> 病衣リース・オムツリース申込書(申込される方) | <input type="checkbox"/> 入院誓約書 |
| <input type="checkbox"/> 退院証明書(3ヶ月以内に他院に入院されていた方) | <input type="checkbox"/> 各種同意書 |
| <input type="checkbox"/> 介護保険証(お持ちの方) | |
| <input type="checkbox"/> 室料差額徴収に関する同意書(個室利用の方のみ) | |

<必要物品>

- パジャマ、下着(上下)、靴下、タオル類(バスタオル、フェイスタオル)
※上記は「病衣リース」での契約でリース品もご利用いただけます。◎リース料は別紙をご参照ください。
- 履物
※転倒予防のため、原則スリッパではなく靴タイプのものをお持ちください。
- コップ・お箸またはスプーン等(使い捨てが望ましい)
※食事時にお茶はつきますが、それ以外で飲んだりうがいをするためのコップ(プラスチック製)をご用意ください。
- テレビ用イヤホン(大部屋でテレビをご利用になる場合)
※4階の自動販売機でも販売しております。1個200円。
- 現在飲んでいる薬
- お薬手帳(薬剤情報提供書)
- 洗面用具(歯ブラシなど)
- シャンプー、ボディソープ
- ティッシュ
- マスク(不織布)

<必要に応じて>

- オムツ、お尻拭き(使い捨てタイプのもの)
※「オムツリース申込書」の契約でリース品もご利用いただけます。
- T字帯、弾性ストッキングなど
※手術を受けられる患者さんに購入していただく場合があります。
- 義歯入れ、義歯洗浄剤
- 電動ひげそり

<その他>

- ※治療および衛生管理上、食べ物の持ち込み、差し入れはご遠慮ください。
- ※持ち物にはすべてお名前の記入をお願いいたします。
- ※刃物類(ハサミ、カッター等)、発火物(マッチ、ライター等)の持ち込みはご遠慮ください。
- ※ご自宅でいつも飲まれているお手持ちのお薬は、看護師にお預けください。
入院時に使用のお薬と相互作用がないかどうか成分等の確認をいたします。(サプリメント含む)



入院中の生活

入院中のご注意

- 安全管理のため、識別バンド(ネームバンド)・ベッドネームをつけさせていただきます。
- 院内および病院敷地内は禁酒・禁煙です。
- 病室内での談笑や飲食は他の患者様の迷惑にならないようにご配慮ください。
- 病院の秩序を乱す行為があった場合は、退院していただくことがあります。
- 患者様・利用者様及び職員の個人情報やプライバシーを保護する目的で院内及び敷地内での写真や動画の撮影、録音は原則禁止とさせていただきます。

外出・外泊について

- 外出・外泊にあたっては事前に主治医の許可が必要になります。
「外出・外泊許可願」用紙をお渡ししますので、必要事項を記入し看護師へ提出してください。
原則として治療に必要な外泊は認められません。個人的理由による外泊希望は認められない場合があります。
- 外出・外泊時に具合が悪くなった際は、入院病棟へご連絡ください。
- 外出・外泊時の事故やトラブルについての責任は負いかねますのでご了承ください。

ベッド周りについて

- 定期清掃は行いますが、汚れなどで気になる場合はスタッフステーションのスタッフへお声かけください。
- ベッド・床頭台などの整理整頓と清潔をいつも心掛けてください。
- 下記のは病室内のゴミ箱へは入れず、所定の場所へお捨てください。
乾電池・ペットボトル・空缶・空瓶・生ゴミ・血液付着物
所定の場所がご不明なときは、職員におたずねください。

貴重品について

- 病院でお預かりすることはできません。
- 貴重品や多額の現金は、お持ちにならないようお願いいたします。
万一、盗難・紛失などが発生した場合、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 自動販売機(ジュース、テレビカード)での紙幣の使用は千円札のみ可能です。両替機はございませんので、あらかじめご準備いただきますようお願いいたします。

その他

- 退院時の忘れ物の保管期間は1ヶ月です。保管期間を経過した物は処分させていただきます。ご了承ください。
- 職員に対する御心付けはかたくお断りいたします。

料金について



入院費用について

請求日 毎月末締め翌月10日（10日以内にお支払いください）

- 退院日の会計については、医療費計算後お知らせいたします。
- 被保険者資格に変更（保険証の変更）があった場合は、速やかに受付窓口にご提示ください。
- 限度額認定証をお持ちの場合は、速やかに受付窓口にご提示ください。
入院費のお支払い金額が1ヶ月あたりの自己負担限度額まで（保険外診療・食事代を除く）となります。

病室について

- 入院予約時に個室をご希望される場合はお申し付けください。
状況によりご希望に添えない場合があります。あらかじめご了承ください。
- 個室料金は1日13,200円(税込)、2床室は1日3,300円(税込)になります。
また、感染症患者様の隔離が必要な状況が発生した場合、病室を移っていただくことがあります。あらかじめご了承ください。
- 入院料金は1日ごとにかかります。入院・退院または転院する当日は在時間に関わらず、1日分の料金の支払いとなりますのでご了承ください。（1泊2日の場合、2日分の料金をいただきます。）

包括医療費支払い制度（DPC）について

当院は2024年(令和6年)6月より、厚生労働省が定める「DPC対象病院」(4F急性期病棟)となっております。入院費は包括評価による「診断群分類に基づくDPC制度(DPC/PDPC)による定額算定方式」にて計算しております。

DPCとは、従来の診療行為ごとの点数をもとに計算する「出来高払い方式」とは異なり、入院期間中に治療した病気の中で最も医療資源を投入した一疾患のみに厚生労働省が定めた1日当たりの定額の点数からなる包括評価部分（入院基本料、検査、投薬、注射、画像診断など）と従来どおりの出来高評価部分（手術、胃カメラ、リハビリ等）を組み合わせる方式です。1日当たりの定額の点数は、「診断群分類」と呼ばれる区分ごとに、入院期間に応じて定められています。尚、入院中の食事代はDPCには含まれておりません。

入院医療費 = 包括評価部分 + 出来高部分

包括評価部分

- 入院基本料
- 検査
- 投薬
- 注射
- 画像診断料など



出来高部分

- 手術、麻酔
- 内視鏡検査
- カテーテル検査
- リハビリなど

Q. 入院費は高くなるの？安くなるの？

- 病気の種類や治療内容によって分類され1日当たりの医療費が決まるので、従来の出来高払い方式にくらべ、高くなる場合も安くなる場合もあります。

Q. すべての入院患者が対象となるの？

- 主治医が判断した場合に対象となりますが、該当しない場合は、従来通り出来高払い方式となります。
- なお、DPCでは診断群分類ごとに特定入院期間(包括の期間)が定められており、この期間を超えた場合、出来高払い方式に切り替わります。

Q. 治療病名が途中で変わった時はどうなるの？

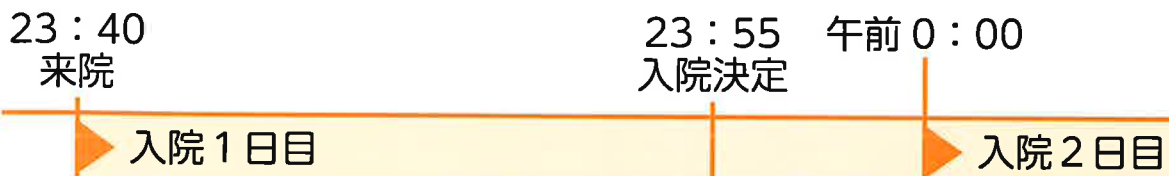
- 入院時から治療が進むにつれ、途中で病気の状態や治療内容の変更などにより分類が変わった場合は、入院初日に遡り、医療費の計算をやり直すことがあります。この場合、月をまたがっていた時は、すでにお支払頂いた前月までの医療費について、退院月で過不足を調整いたしますので、あらかじめご了承ください。

Q. 入院中の食事代、個室料はどうなるの？

- 食事代、個室料はDPC対象外ですので、従来通りのご負担となります。

計算方法

健康保険の自己負担率、ならびに健康保険法などの規定に基づいて計算いたします。
入院日数の計算は、健康保険法により、午前0:00を起点に行います。
そのため来院時間に関係なく、午前0:00をまたがって入院された場合の入院日数は2日間となります。



高額療養費「限度額適用認定証」手続きのご案内

病院へ医療費の支払いが高額になってしまった場合には、高額療養費の制度が適用されて、医療費の一部が払い戻されます。(払い戻される額は、年齢や収入で異なります。)

- 70歳未満の患者さまは「限度額適用認定証」の手続きをされることにより窓口での自己負担限度額が適用されます。
 - ・ 「限度額適用認定証」発行の手続き方法と窓口は、加入している保険によって異なります。この制度を利用できるかどうかの判断は、各国民健康保険、協会健保、健康保険組合が行いますので、保険証に記載されている保険者へお問い合わせください。

※入院の時期があらかじめ分かっている方は、入院前に手続きができます。

※緊急の入院など入院前に手続きができなかった場合でも、同一月内に病院に提出いただければ利用できる場合がありますので、お早めに手続きください。

- 「限度額適用認定証」は1階受付に保険証と一緒にご提出ください。
- 70歳以上の患者さまは医療保険証にて限度額が定められている為、お手続きの必要はありませんが収入により減額になる場合があります。該当する場合は申請手続きが必要となります。

お支払い場所・時間

時間 月曜～金曜 午前9:00～午後6:30
土曜日 午前9:00～午前11:30

場所 1階会計窓口

- 銀行振込をお受けいたしております。くわしくは受付窓口へお問合せください。
- クレジットカードをご利用いただけます。くわしくは受付窓口へお問合せください。
- 領収書は高額療養費の手続きなどで必要となる場合があります。再発行はいたしませんので大切に保管して下さい。なお紛失や他の手続きで使用された場合は、有料で『領収証明書』を発行いたします。

診断書

診断書・証明書等について

- 各種診断書の記載、発行を希望される場合は受付窓口へお越しください。受け取り希望日をごございましたら同時にお申し付けください。
- その他にもご不明な点がございましたら受付職員にお尋ねください。

施設について



施設について

無料送迎車

- 病院正面玄関
- 発車・到着時間は道路状況により変わる可能性がありますのでご了承ください。
- 運行に関する詳細は別紙をご覧ください。

駐車場

- 駐車場は有料となっております。 ※30分無料(以降100円／1時間)

医療相談

- 1階 地域連携室
- 相談時間 午前 9:00～午後 5:00 (月～金)
午前 9:00～午後 0:00 (土)
- 入院・退院・転院についてや医療費のお支払い、病院への要望・苦情など、ソーシャルワーカー等がご相談をお受けしております。お気軽にご利用ください。

災害時の対応

- 非常の際には、医師、看護師など病院職員が安全な場所へ誘導します。職員の指示に従ってください。
- 非常時以外の非常口の使用は禁止しています。



ご面会・付き添いについて

曜日・時間帯につきましては、ホームページにて御確認ください

- 付き添いは原則としてお断りしています。ただし、病状等により主治医が許可した場合はご家族の付き添いが可能です。ご相談ください。

プライバシー・個人情報保護について

- 入院後に面会を希望されない場合は各部署責任者へ申し出て所定の申請書に必要事項をご記入の上、病棟へご提出ください。病室前の患者様のお名前につきましても申請により掲示いたしません。
- 面会制限に関しまして、病院側が完全に制限できるとは限りません。ご本人様・ご家族様での対応も併せてお願いいたします。
- 電話による患者様に関する照会や取次ぎは、原則応じておりませんのでご了承ください。入院前に、ご家族様や勤務先等へはあらかじめご連絡いただきますようお願いいたします。

当院の取り組みについて



多剤内服について

多剤内服とは？

- 何種類以上の処方をもって多剤内服とするか統一された定義はありませんが、さまざまな研究により5種類以上の内服は薬物有害作用の頻度が高くなることが示されています。

多剤内服で起こる問題

●薬物有害作用

薬物有害作用とは、薬剤の副作用や薬剤の併用による薬剤同士の相互作用から生じる、好ましくない作用のことです。高齢者は若年者と比べ、身体や内臓の機能が衰えているために薬が効きやすい状態となっています。そのため、薬物有害作用の発生頻度が多く、重症となりやすいことが知られています。薬剤数が増えるほど、高齢になるほど薬物有害作用の発生リスクが高くなります。

●服薬の過誤

薬剤数が増えると飲み忘れや飲み間違えの危険性が高くなり、認知症がある場合はさらにその危険性は高まります。

なぜ多剤内服になるの？

●高齢者は複数の疾患を持っている

医師は1つの疾患ごとにガイドラインに沿った処方を行う傾向があります。多数の疾患を持っていると結果的に多剤服用になりやすくなります。

●医療連携の不足

医療機関同士、または診療科同士の連携がとれていないと、処方の重複や不必要な処方により多剤内服に陥りやすくなります。また、他病院や他科医師の処方に介入することを敬遠する医師が少なくないことも、原因のひとつと言えます。薬剤全体を管理する役割の医師や薬剤師がいないことも問題です。

●患者様の心理的問題

病院を受診した場合に、疾患や症状に対して処方があると納得するが、処方がないと不満、処方を減らされると不安というような患者様側の心理も影響しているでしょう。

●医師と患者様のコミュニケーションの問題

医師に対して薬を減らしてほしいとは言い出せないなどのコミュニケーション面での問題もあるかもしれません。認知症などにより症状をうまく伝えられなくなると、本当は治療していたり副作用が出ているような場合でも、気付かれずに同じ処方が継続されることが考えられます。

入院は仕分け作業のチャンス

- 高齢者の多剤内服はさまざまな悪影響を引き起こすため、薬剤の「仕分け作業」をおこない、内服を適正化することが必要となります。時間的制約の多い外来診療の場で「仕分け作業」を行うことは難しく、入院はその絶好のチャンスと言えます。
また、入院中は薬剤の減量や中止による影響を常に観察することが出来るため、より安全に薬剤の調整を行うことが出来ます。
- 当院は入院患者様の多剤内服状態を改善するために積極的な活動を行っています。
ご理解・ご協力いただけますよう、よろしくお願い致します。



医療安全へのご協力をお願い

- 当院では、安心して安全な医療の確保や感染防止対策のために、患者様・ご家族様及び面会にお越しの皆様へ、以下の様なご協力をお願いしております。尚、治療や検査についても内容を理解し、わからないことは医師や看護師にお尋ねください。また安全のための患者様の確認に積極的にご参加ください。

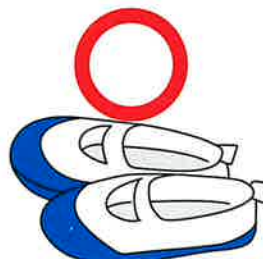
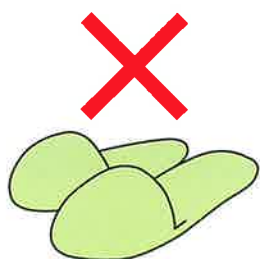
お名前確認へのご協力について

- 当院では、患者様の間違いを防ぐためにお名前の確認をしています。お尋ねした際は、お名前をフルネームでお答えいただきますようお願いいたします。患者様自身での確認が困難な場合は、ご家族様にお尋ねします。また全ての入院患者様に、退院されるまでネームバンドを装着させていただいておりますので、ご協力ください。

転倒・転落予防について

- 当院では、治療に専念していただき一刻も早い回復を願い、病院職員一同が、皆様の安全を高めるため、転倒・転落に注意しております。しかしながら住み慣れた家庭環境とは異なり、病院の慣れない環境での入院生活は体力の衰え・運動機能の低下などにより、思いがけない転倒やベッドからの転落事故が起こることがあります。患者様のみならず、ご家族様も危険性をご理解いただき、安全に向けた取り組みへのご協力をお願いいたします。入院中の履物は、日頃履き慣れた「かかと」のあるものをご持参ください。

※当院では、スリッパやサンダルは滑りやすいため、原則禁止しております。



身体抑制について

- 治療・看護ケアにおいて、患者様の行動によりご本人様の生命や身体に危険が生じる可能性がある場合、安全確保・リスク回避の目的でやむを得ず緊急的に最小限での身体抑制をさせていただきますことがあります。抑制施行中は、抑制による合併症などの観察を毎日行い、可能な限り一時的な抑制を含めた解除や最短期間を検討する予定です。しかし、緊急やむを得ない場合には、抑制の方法や開始期間や解除予定を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

感染防止対策へのご協力について

1) 手指の衛生

- 入院中の患者様は、普段より身体の抵抗力が低下し、感染症にかかりやすい状態です。入院中は病室に出入りする時、食事の前、トイレの後には、流水での手洗いや、備え付けのアルコール手指消毒剤を使用して手の衛生を保ってください。

2) 咳エチケット

- 咳・くしゃみの際には、咳エチケットにご協力をお願いいたします。
 - ① 症状があるときはマスクをしましょう
 - ② 咳・くしゃみの時は、ティッシュで口と鼻を覆いましょう
 - ③ 使い終わったティッシュは、すぐにゴミ箱に捨てましょう
 - ④ 鼻水など飛沫に触れた手は、すぐに手洗いか手指消毒をしましょう

3) ご面会

- 発熱・嘔吐・下痢などの症状がある方の面会をご遠慮ください。
- お子様連れの面会は、感染予防の点からご遠慮いただく場合があります。
- 食べ物、生花の持ち込みはご遠慮ください。
- インフルエンザ等、感染症の流行時には、面会の制限やマスクの着用等をお願いすることがあります。
- 感染症の患者様にご面会の際は、マスクやエプロン等の着用をお願いすることがあります。

4) その他

- 食中毒の点から、食べ物の持ち込みはご遠慮ください。
- 感染症発症のため、個室にお入りいただかざるを得ない患者様がいらっしゃった場合、ご入院中の患者様に転室をお願いすることがあります。
- 手術や一部の検査に際して、事前に感染症（B型肝炎・C型肝炎・HIV感染症・梅毒等）の検査を行っております。安全に診療を行っていくために欠かせない検査ですので、ご理解とご協力をお願いいたします。



介護骨折と褥瘡について

介護骨折とは？

- ① 80歳以上の高齢者の過半数が骨粗鬆症であると言われており、なかでも身体の活動性が低下する寝たきり状態になると急激に進行します。
- ② 介護骨折というのはおむつ交換や更衣、体位変換、車椅子への移乗など、日常のありふれた介護動作により意図せずに発生する骨折のことを言います。そして、そのほとんどの場合が重度の骨粗鬆症であり健常者では起こり得ない軽微な外力により骨折します。
- ③ 特に関節の拘縮が強い患者様の場合は骨にテコの原理が働くためリスクはさらに高くなります。
- ④ 当院では介護骨折院内発生ゼロを目指して介護者の教育研修を行い、十分な注意を払ってケアをしております。しかし、患者様の状態によってはそれでも防ぐことができない場合があるということをご理解ください。

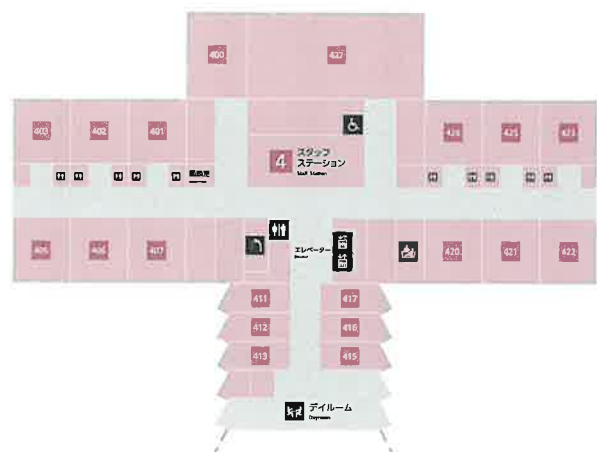
褥瘡とは？

- ① 褥瘡は寝返りが十分にできないような状況で仙骨部(お尻の付け根)やすね、かかとなどに発生します。
局所の圧迫と皮膚のズレによる局所の血流の低下により、組織が壊死して発生します。
- ② 感染症などで全身状態が悪化すると、皮膚などの末梢組織の血流低下が起こることが多く、急激に褥瘡が発生したり、悪化したりすることがあります。
- ③ 当院では褥瘡発生させないための徹底した対策をしておりますが、患者様の状態によってはそれでも防ぎきれない場合があることをご理解ください。

3F



4F





- お車の場合、南東方面、学園都市方面からお越しの際は小束山6交差点か学園南インターの交差点をご利用ください。
- バスでお越しの方は、学園都市駅前バス停161系統に乗車、順心神戸病院前バス停下車、徒歩すぐです。